

令和6年度 岐阜県農政審議会（第2回） 開催結果

1 日 時：令和7年3月24日（月） 10：30～12：00

2 場 所：県議会棟3階 大会議室

3 出欠状況

（出席者 以下16名（うち委員15名））

国枝 慎太郎	（岐阜県議会農林委員会 委員長）
西脇 康世	（岐阜県町村会 副会長 関ヶ原町長）
岩井 豊太郎	（一般社団法人岐阜県農業会議 会長） （岐阜県農業共済組合 組合長理事）
川村 規明生	（岐阜県農業協同組合中央会 専務理事）【代理出席】
山内 清久	（全国農業協同組合連合会岐阜県本部運営委員会 会長）
村下 貴夫	（一般社団法人岐阜県畜産協会 会長）
春見 秀則	（岐阜県指導農業士連絡協議会 会長）
橋本 涼	（岐阜県青年農業士連絡協議会 会長）
三尾 揚子	（岐阜県JA女性連絡協議会 会長）
森 裕子	（岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク 会長）
高田 禮子	（ぎふ農業委員会女性ネットワーク 会長）
山田 邦夫	（岐阜大学 教授）
神谷 眞弓子	（東海学院大学 学長）
道家 晶子	（岐阜市立女子短期大学 教授）
長屋 紀美江	（公益社団法人岐阜県栄養士会 会長）
竹中 昌子	（一般財団法人岐阜県地域女性団体協議会 会長）

（欠席者 以下5名）

山内 登	（岐阜県市長会 下呂市長）
櫻井 宏	（岐阜県農業協同組合中央会 代表理事会長）
尾藤 義昭	（岐阜県漁業協同組合連合会 代表理事会長）
藤原 勉	（岐阜県土地改良事業団体連合会 会長）
堀部 智子	（生活協同組合コープぎふ 副理事長）

（事務局：岐阜県農政部 以下27名）

農政部	部長、次長（事務）、次長（技術）、次長（技術）
農政課	課長、技術総括監、スマート農業推進室長、農業研究企画監、 笠松競馬支援室長
検査監督課	課長
農産物流通課	課長、販売戦略企画監
農業経営課	課長、担い手対策室長
農産園芸課	課長、花き・農業環境対策監
畜産振興課	課長、畜産指導監、飛騨牛銘柄推進室長
家畜防疫対策課	課長、野生いのしし対策室長
農村振興課	課長兼鳥獣害対策室長
里川・水産振興課	課長、水産振興企画監、コクチバス対策室長
農地整備課	課長、農地防災対策室長

4 内 容

- ・諮問
- ・新たな農政の基本計画の策定について

5 議事要旨 別紙のとおり

別紙

令和6年度岐阜県農政審議会（第2回）議事要旨

1 開会

2 農政部長挨拶

【足立農政部長】

- ・委員の皆様には、お忙しい中、出席を賜り、厚くお礼申し上げます。
- ・本日は、令和8年度から始まる、県農政の新たな計画の策定に向けて諮問させていただく。
- ・近年、気候変動や国際情勢の不安定化による輸入リスクの増大などが進み、「食料安全保障」の重要性が高まっている。国では昨年5月に「食料・農業・農村基本法」を改正し、新たに「食料安全保障」を基本理念の柱として位置づけ、今後5年間で農業の構造転換を集中的に推進するとしている。
- ・この2月に江崎知事が就任し、「安心と挑戦の岐阜県、共に未来を創る場所(ところ)」を政策テーマに掲げ、人口減少が深刻化する現状を転換し、「安心」と「ワクワク」に溢れ「人やモノが集まる岐阜県」を創るため、政策を10の柱に整理して公表。
- ・本県の新たな計画は、極めて重要な計画であり、食料安全保障の根幹は、食料自給率を高めていくことだと考えている。県としても、農地を十分に活用し、安全で美味しい農作物の生産を通じて、県内の食料自給率を向上させていきたい。
- ・委員の皆様にはそれぞれの立場から、積極的に関わっていただくよう、お願い申し上げます。

3 諮問

【足立農政部長】

- ・新たな農政の基本計画の策定について、岐阜県農政審議会設置条例第2条第1項第6号に基づき、諮問。

【山田会長】

- ・今後、岐阜県の農業・農村のあるべき姿を想像しながら、議論を深め、県民の期待に応えられるような答申をするため、委員の皆様には、協力いただきたい。

4 議事録署名者の選定

【山田会長】

- ・議事録署名者に、山内 清久委員と神谷 眞弓子委員を指名。

5 新たな農政の基本計画の策定について

【東技術総括監】

- ・資料1から資料3に基づき、「新たな農政の基本計画」の策定に関する基本的な考え方や進め方を説明。

【山田会長】

- ・農業従事者が急速に減少する中で食料自給率を高めるためには、従来のやり方だけでは対応できないレベルに達していることを前提に、新たな農政へと転換させていく必要がある。
- ・委員の皆様から意見をいただき、本審議会としての基本的な考え方を整理したい。
- ・事務局の説明に関し、委員の皆様から意見、質問等をお願いしたい。

【村下委員】

- ・資料2の「食を支える消費者の理解醸成」にある「地域の消費者が求める（食べたい）農産物づくり」で話があった地消地産という考え方は、新しい発想だと思うが、今後、地消地産率を算出していくのか。

【佐藤農政課長】

- ・地消地産について、率で測ることがふさわしいのか、そもそも算出できるものなのかは検討の余地がある。
- ・基本的には、県内の食料自給率向上が最大のテーマであるため、その中で地消地産という考え方をどのように測っていくかは今後議論していく。

【村下委員】

- ・地消地産という考え方は非常に大切であり、新しい発想の観点。今回の計画策定では、評価指標の設定を含めしっかりと検討すべき。
- ・資料2の「魅力ある農畜水産物づくり」にある「飛騨牛ブランドの更なる発展と食肉供給体制の強化」について、食肉基幹市場の整備は遅々として進んでいない現状であり、新たな計画には明確に位置付けてほしい。食肉基幹市場は本県の畜産振興に大きく寄与することから、新知事のもと、改めての再出発と積極的な県の関与をお願いする。

【長屋畜産振興課長】

- ・食肉基幹市場については、県にとっても重要な施設だと認識している。関係者団体で組織される促進協議会で議論されているが、来年度は県も課内に食肉流通対策室を設け、畜産物の生産から流通に係る動向や見通しなども分析しながら、積極的に関与し

ていく。

- ・また、基本的な考え方に記載のとおり、次期計画に向けては、具体的な内容を検討し、計画に位置付けていきたい。

【村下委員】

- ・よろしく願いたい。

【岩井委員】

- ・食料自給率について、過去１０年間の数値が変化していないことについてどう考えているか。

【佐藤農政課長】

- ・ご指摘のとおり、食料自給率は横ばいで推移しており、実効性のある取組ができていなかったと考えている。
- ・昨今の米をめぐる情勢をうけても、食料自給率は非常に大切な指標だと考えているため、次期計画ではしっかりと取り組んでいきたい。

【岩井委員】

- ・毎年、どのように反省していたのか。

【佐藤農政課長】

- ・これまで、県内の耕地面積と人口の割合をもとに食料自給率を分析していた。今後は、より踏み込んだ分析をしていきたいと考えている。

【岩井委員】

- ・国は、今後５年間で食料自給率を３８％から４５％にまで伸ばすと言っているが、県は対応できるのか。

【佐藤農政課長】

- ・対応できるように考えていく必要があると思っている。

【岩井委員】

- ・生産者と消費者の両方の立場で取り組まなければ、食料自給率は伸びない。

【佐藤農政課長】

- ・両面から取り組んでいきたいと考えている。

【岩井委員】

- ・今までなぜそれができなかったのか。10年間も横ばいの状況では反省してるとは言えない。

【田口農政部次長】

- ・政策的にもいろいろと尽くしてきたところではあるが、確かに食料自給率は横ばいで推移しており、米や麦、大豆といった土地利用型作物を増やしていけば、食料自給率が伸びた部分もあったかもしれない。
- ・今後は、海外から輸入している畜産飼料をできるだけ国内産、県内産で賄っていく等、現状をしっかりと分析し、急速に展開する形をとっていきたいと考えている。今後の検討にぜひ様々な意見をお願いしたい。

【岩井委員】

- ・県の食料自給力はどのようなデータが出ているのか。

【佐藤農政課長】

- ・食料自給力については、県別のデータが公表されていない。

【岩井委員】

- ・食料自給率と食料自給力はセットで考えないといけない。

【足立農政部長】

- ・この10年間、食料自給率が変化していないことをきちんと受けとめ、国からデータをもらいながら取り組んでいきたいと考えている。
- ・これまでは農業側から見た計画に、消費者も入っていただくという切り口だったが、新たな計画では、消費者の観点も反映させていきたい。

【岩井委員】

- ・地消地産ということは、岐阜県産のものを消費するということを消費者にも十分理解してもらい、食料自給率を上げていくということになる。
- ・究極は、食料自給率を高めることに繋がると思うが、カロリーベースだけでなく、切り口を変えて考えてもらいたい。

【山田会長】

- ・消費、生産両方の面から今までやってこなかったような新しい政策、地消地産という考え方もあると思う。

- ・新しい切り口で消費者の面から、生産者の面から取り組まないと食料自給率は上げられない。ぜひ、よろしくお願いしたい。

【国枝委員】

- ・父親がリタイヤして家庭菜園を一生懸命取り組んでいる。そういった目には見えない、食料自給率というものも県内にはあるのではないかな。
- ・健康寿命が伸びてきていることを考えれば、高齢者も含めて、働いている環境を楽しんでもらう場所が人を育てる、農地を守るということに繋がってくるのではないかな。
- ・今後、政策転換の中で、規模拡大を補助事業を活用するための要件とすることはやめてほしい。従来の生産規模の拡大といった取組に加え、現状の農地も守っていくという小さな農地の活用といった取組の両面で促進してほしい。
- ・鳥獣害対策について、昨日も猟友会の鳥獣供養祭に参加し、サル対策の話を聞いた。一番の課題は、捕獲したサルを檻の中へ追いやり、誰が電気ショックを与えるのか。さらにそのサルを埋めることを地域でやると言っても、なかなか厳しいという点。
- ・また、カラスによる被害も非常に増えており、カラスの檻の設置は要望が多いが、補助事業による対応が厳しい現状も聞いている。
- ・鳥獣害対策は、農業者の意欲を保つ上で重要。捕獲した鳥獣の処理の仕方などは、部局横断的に検討し、今後も支援を拡充してほしい。

【橋本委員】

- ・担い手というのは、どのぐらいの解像度で、普段話を進めているのか。担い手と言っても様々な規模感があるが、いわゆる売上20億、30億といった日本を代表するようなリーディングカンパニーを目指す担い手は含まれているのか。

【長谷川農業経営課長】

- ・担い手の中には、億単位で稼ぐような担い手を育成したいということも含めている。

【橋本委員】

- ・売上20億、30億、その上を目指していくような組織を作っていく方針はあるのか。

【長谷川農業経営課長】

- ・そういった取組を目指す方がいれば、県としては、全面的にバックアップしていく必要があると考えているため、そういった動きがあれば、応援していきたい。

【橋本委員】

- ・ぜひ、売上20億、30億といったリーディングカンパニーを目指す農業者の支援もお願いしたい。

- ・大規模、大区画化を求める農業だけでは、将来、農地を守りきれない。売上20億、30億は、単に規模拡大だけでは目指せない点も含めて、視座を高くして支援してもらえると嬉しい。

【春見委員】

- ・まずもって、農家の意見を吸い上げていただき、感謝する。
- ・これだけ売り手市場の状況で、どうやって農家に興味を持ってもらうかが重要なポイントとなる。今後の考え方を伺いたい。

【長谷川農業経営課長】

- ・県では、(一社)岐阜県農畜産公社内にぎふアグリチャレンジ支援センターという組織を設置しており、そこで幅広く、様々な形で農業に参画してもらう方の相談対応を行っている。そこを核にしながら、農業に関心を寄せる人が様々な形で参画してもらえるような仕組みをさらに一步進めていきたいと考えている。

【春見委員】

- ・食料自給率を維持しようとする、今頑張っている農家が現状の規模をある程度確保しながら、もう少し面積も増やしていかないとなかなか食料自給率は上がらない。労働者の雇用環境整備も念頭に置いてもらえるとありがたい。
- ・小さな農業は、食料自給率にはなかなか結び付かないと思う。やはり条件の悪い農地を活用してとなると、どちらかというと農地を守るといった観点になると思うが、計画に対してどういった成果を期待しているのか。

【佐藤農政課長】

- ・小さな農業について、確実に取り組めば、実質的な自給力は上がっていくと考えているため、指標の取り方をしっかり検討していく必要があると考えている。
- ・場創りについては、知事のアグリパーク構想も具体化していきながら、気軽に取り組める場を設けていきたい。

【山内（清）委員】

- ・有機農業や農薬不使用の方向性については理解できるが、昨年のカメムシ発生への対応など、農薬を適切に使用しなければならない場合もあるため、誤ったシグナルとならないよう、発信の方法には気をつける必要がある。
- ・人づくりのためには、小さいころからの農業体験が必要。学校教育の中で我々JAとしても一生懸命参画していきたいと考えているため、共に進めていきたい。
- ・県が推進してきた就農支援施設で研修した若い農家の中には、すでに何億という売上

を達成するような農家も出てきており、そういった希望を持てる農家育成をぜひ県も力をいれてやってほしい。

【足立農政部長】

- ・担い手の種類について、もう少し細かく掘り下げていく必要があると思っている。
- ・ある程度、成果が出ているとは思いますが、小さい農地を守るという観点や、数億、数十億を稼ぐトップリーダーとなるような方も育成するという観点で担い手のバリエーションを持つことにより、農地を守りつつ、県の農業を推進していけると考えているため、必要な人に必要な支援を届けていきたい。

【森委員】

- ・農業の傍らで福祉事業を始めている。最初は農業をやっていて、今後人手がどうしても必要だということから、福祉事業を始めたのがきっかけだが、福祉の中には、やはり農業の担い手となれる人材がまだまだ眠っていると実感している。
- ・農福連携と言うと、障がい者が軽い感じで農業に取り組むことで、癒しを得られるというイメージで取られがち。
- ・福祉側から農業参入するケースだと、食料自給率の向上に寄与するような農産物が作れない農業になってしまっている。
- ・農福連携においては、障がい者にどのように農業に取り組んでもらうか、福祉の目線がどうしても必要。福祉と農業の視点が合わさってこそ、食料自給率の向上に寄与するような新しい担い手が生まれる。ぜひそういった視点でも企画部会委員を選定してもらえると次につながるため、よろしく願いしたい。

【佐藤農政課長】

- ・企画部会の委員に加え、テーマに沿った有識者や実践者なども参考人として、議論に加わっていただくことを予定している。農福連携について議論する際には、福祉関係の方にも参加いただきたいと考えている。

【山田会長】

- ・従来の取組と新たな取組の両輪で進めていく時には、様々な形態の担い手がいるということを前提に議論を深めていく必要がある。ぜひよろしく願いしたい。

【高田委員】

- ・去年はカタツムリ（ジャンボタニシ）が大量発生し、補助が無くなってさらに発生したようなこともあった。また、柿や米のカメムシもそうだが、従来見たことがない種類のカメムシが大量発生した。

- ・非農家を含め、農産物を栽培している方へどのような病気や病害虫が発生しているのかということを県レベルで一斉に周知したほうが良い。
- ・例えば、柿を栽培している大きな農家の傍に非農家がいると、消毒方法やその適期がわからないと思う。そのため、しっかり情報を周知していかなければ、富有柿発祥の地である岐阜県がすたれてしまう感じがする。
- ・本巣市で食育活動をしているが、野菜がいつ採れるのか、四季の野菜が何かということも小さい時から教えていく必要がある。
- ・食育活動を進めるためにも、ぜひ県には多くの県民に情報発信できる方法を検討してもらいたい。

【三尾委員】

- ・学校における食育活動を各地域で実施しているが、小学校教育に農業が組み込まれないかと思っている。毎年毎年、農業に関する教育を受けることができれば、将来、農業を目指す子どもが出てくるかもしれない。
- ・農業を志しても、自分一人では挑戦できないため、受入口を県として支援できれば農業従事者を増やしていけるのではないか。
- ・給食に地元の食材を使用することが地産地消に繋がる。関係機関と連絡を密に取り、対策を講じることが必要。

【山田会長】

- ・食を支える消費者の理解醸成も重要だと思うが、消費者の行動変容や、消費者が食べたいもの、求めている農作物づくりという点でコメントをいただきたい。

【竹中委員】

- ・その土地で採れて、安心して食べられる食材を求めているが、スーパーでは産地がまとめられ、より安いものという方向に走っていることが残念。
- ・小さな畑でも、農作物が採れ過ぎて食べきれないという声を聞く。小規模な農地で生産した農作物であっても、生産物をまとめられるような仕組みや場所があるとよい。
- ・子供の体験は非常に大切である。小さいときの体験は思い出にも知識としても残る。そのため、楽しむ農業や地域の仲間づくりとして活動できる場があるといい。

【橋本委員】

- ・売上20億、30億という規模を目指す一方で、小さい農地を守る取組や有機農業をどう進めていくかという点も課題だと思う。
- ・農業に興味がある、それこそ有機農業やどちらかというと小規模でも丁寧な農業を求めている若者が非常に多い。商売ベースに乗せることが難しいところに関しては、一

部ボランティアでやっていくことは可能性がある。

【西脇委員】

- ・中山間地域では、現在の世代がリタイヤすると農業団体や営農組合の後継者が途絶える状況にある。以前は、60歳で定年を迎えると、地元へ帰り、農業をする流れがあったが、この流れは消えてしまった。後継者の見つけ方、地元に入る人材を確保するための支援策を検討してほしい。

【山田会長】

- ・前半でも議論があったが、営農意欲の減退が非常に大きな課題。
- ・その要因として、鳥獣被害や農産物価格が追い付いていない点、さらに地球温暖化によって、収量、品質が低下する点も大きく影響しており、これらを含む財政的な政策と試験研究、普及の広報活動の全面からサポートが必要。
- ・新たな農政の基本計画に関する基本的な考え方や進め方について、事務局が提示した今回の案をベースに、各委員から出た意見等を踏まえ、整理するということで、異議はないか。

【各委員】

(意義なし)

【山田会長】

- ・詳細な調整については、私に一任いただきたい。
- ・事務局においては、基本的な考え方を踏まえ、素案作りを進めるようお願いしたい。来年度、企画部会において、より掘り下げた議論を私自身も含めて進めていく。よろしくお願いしたい。

6 意見交換

【山田会長】

- ・議題以外にも岐阜県の農業・農村の振興について、意見があれば頂戴したい。

【各委員】

(意見無し)

【山田会長】

- ・意見も尽きたため、本日の審議を終了する。
- ・委員の皆様においては、長時間にわたる審議、並びに議事の円滑な進行にご協力いた

だき感謝する。

7 農政部長挨拶

【足立農政部長】

- ・委員の皆様においては、長時間にわたり、非常に幅広い意見をいただき、感謝する。
- ・食は人間の基本であり、農業農村を振興していくためには関係機関の皆様はもちろんのこと、教育委員会や福祉、観光等、他分野の皆様と連携を密にしながら新しい仕組みを作ることが大切だと痛感した。
- ・指摘いただいた内容を踏まえ、来年度、山田会長におかれては、引き続き企画部会でよろしくお願いしたい。また、委員の皆様にはそれぞれのお立場から引き続き意見等を頂戴できればと思う。

8 閉会